

地震対策には耐震・制震・免震の3工法があります。

構造 種別	耐震構造 揺れの軽減率 0%	制震構造 揺れの軽減率20~50%	免震構造 揺れの軽減率85~90%
工 法	耐力壁を増やしたり、接合部を固めて建物の骨組みで地震に耐える工法。大きな地震には建物の骨組みを損傷させてエネルギーを吸収する。	地震動によるエネルギーを様々な方法で吸収又は相殺し、建物の揺れを軽減する仕組み。	主に、基礎部分に免震装置を入れて建物と地盤を切り離し地震の揺れを建物に伝えにくくする仕組み。
特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・最も一般的な工法 ・高コストにはならない。 ・設計、施工は難しくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れを小さく出来る。 ・免震構造よりコストが低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震にたいしては、最も安全といわれている。 ・建築コストが高い ・設計が難しい。
課 題	ある程度おおきな地震では、建物が壊れなくても、室内の什器の転倒や移動での被害は防止出来ない。 地震後の改修工事が必要。	ある程度大きな地震の後には、再使用できない部材もある。 最下階では、効果が期待出来ない。	軽い建物では風圧力で動いてしまい、その対策は簡単ではない。 軟弱地盤では設置出来ない ので地盤を選ぶ。

上記の通り、揺れの軽減率・二次災害を避けるには『免震』よる地震対策が最も有効であることが判断出来ます。

※免震器具を使用しない『SP免震基礎工法』は免震構造の弱点である、地盤を選ばず軟弱地盤ほど免震効果が期待でき、低コストである。